

(別紙2)

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490100159		
法人名	有限会社 スイート		
事業所名	ケアパーク和月グループホーム 2階		
所在地	三重県桑名市大字太夫123番地2		
自己評価作成日	平成27年6月7日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kanistrue&amp;IjyosyoCd=2490100159-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022">http://www.kaiyokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kanistrue&amp;IjyosyoCd=2490100159-00&amp;PrefCd=24&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	BERシステムズ株式会社		
所在地	三重県 四日市市 八王子町 439-1		
訪問調査日	平成 27 年 6 月 22 日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2Fは1Fほど賑やかではないが、皆が穏やかで笑顔である。在宅時には無くしたとされていた生活機能を取り戻した利用者もおられた。認知度が重度で介護度も5であるが、常に職員が付き添って見守り必要に応じて支援をしている。朝入荷した食材を職員と一つひとつ確認し、笑顔で厨房へ食材を運んで行かれた利用者は、放っておいたら一日中寝ている方という事であった。「残存能力をさりげなく引き出しての支援」が実践されている。生活リズムを鑑みある程度の日課はあるが、各自体調に応じて居室でゆっくりとすごしたり、向かいの施設の友人に会いに行ったりと、職員の柔軟な対応でよりその人らしい暮らしが実現できている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	申し送り時に全員で「理念」を確認・共有し、常に原点に戻り日々の中で、実践に繋がっている	理念がやや抽象的であるため、具体的な実践につながりにくいところがあるが、毎日の申し送り時に業務が理念に基づきどのように実施されたかを報告したり、事故やトラブル発生時には、理念に立ち返り反省を行っている。	配布物等で、理念の意味や理念に基づいた具体的な対応がどのようなことなのか分かるようにできると、さらに意思の統一が図れ、職員間の実践のばらつきや不安が払拭されると期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎朝の散歩、地域清掃を通じて、ご近所の方とのつながりや交流を大切にしている。	利用者や職員で、施設案内や回覧物を届けたり、月1度の自主的な地域清掃や毎朝の散歩中の挨拶などで地域住民との交流が深まった。地域の認知症相談窓口的な役割も果たすようになってきた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症の人がグループホームで生き生きと生活されている現状をお伝えすることで、理解や情報を得られるよう、心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回テーマを決めて、グループホームでの現状をお伝えし、ご家族の意見も聞きサービス向上に活かしている。	家族だけでなく、利用者や近所の方の参加もあり、参加した近所の方から「自分たちが倒れた時のことや身近な健康相談にのってもらえるかな？」との意見を反映して、地域の相談窓口となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政や包括職員と積極的に情報交換ができている。又協力的である。	見取りケア事例報告時には、市や包括の担当者や副市長も来訪し、取組みを評価された。来年からは地域包括ケアの認知症カフェとしての依頼を受けている。市からは積極的に協力を得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設2階出入り口は昼夜問わず施錠はしていない。全ての職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員間で連携をとり、不穏になり外に出ようとする利用者には、動きを止めることなく話を聞き気持ちを受け止めながら同行し、安心感を持ってもらう等、事業所全体で拘束しない教育を徹底し実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議において、高齢者の虐待について学ぶ機会を設け、具体的な症例をあげ、虐待についての意識を高め、徹底防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	開設以来該当するご入居者はいないが、職員会議において権利擁護や成年後見制度について学ぶ機会を持ち知識を高めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては不安や心配な面については十分に説明させて頂き、理解納得の上で進めている。十分な説明とご理解頂けるよう職員二人で対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族へは面会時には、ご入居者の様子をきちんとお伝えし、ご意見・ご要望を伺い、前向きにとらえ、信頼関係作りに努めている。	家族全員にアンケートを行ったり、運営推進会議に利用者や家族が多く参加するので、そこから出た意見や要望も吸い上げ、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の運営を決定事項について現場の職員の意見を聴き、活かすことが、スタッフの意欲、質の向上につながると考えている。	施設の運営は事業所の高い理想と強い信念の下で決定されているため、トップダウンになりがちだが、運営に関する職員の意見や提案を吸い上げるべくコミュニケーションを取る努力をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが向上心を持って働ける職場環境の整備を心がけている。賃金等級制度、資格支援制度、人事考課等の見直しを行った。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の重要性を認識し、事業所内外の研修の充実を図っている。また、OTTについて管理者、主任に対し学ぶ場を持った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着事業者連絡協議会に加入し、他事業所の方と触れ合う機会を持っている。勉強会の参加でサービス内容の再確認ができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際にはまずは入居者様の要望を聞かせて頂き、少しでも不安な気持ちを取り除くことができる様に努めている。必要に応じてお試し利用もして頂き、ご本人の思いを伺うことができた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際には、気軽に施設見学に来て頂いたり、職員によるご自宅への事前訪問を行い、ご家族の要望や・不安・思いをしっかりと受け止め、初期からの信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の際にはまずは生活に慣れて頂き、安心して楽しく暮らして頂くように支援している。他の施設より移られた方は、前施設へも出向きながらご入居者同士の関係も大切にして頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者同士の関係づくりを大切にし、どんな場面においても関わりを持って頂ける様、さりげなく支援している。困ってみえるご入居者には、他のご入居者が優しく助けられる場面がみられた。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のお話を聴かせて頂く中で、ご入居前からの関係等も配慮させて頂いた上で、ご家族との絆を大切にしながら、共にご入居者を支えていけるような信頼関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の要望を受け止め、馴染みの場所へ出かける機会を増やしている。実際に馴染みの商店街に出かけ、店の方との思い出話をされたり、ご自分で品物を探し買い物をして頂いた。	センター方式や本人や家族から聞きとった馴染の場や人に繋ぐために、原則月1回担当職員が利用者の希望を聞いて同行し、関係の継続を実現させている。田んぼや墓参等は家族に協力してもらっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各ご入居者の状態、様子を十分把握したうえで、ご入居者同士が支え合える様支援をしている。ご入居者の中でも特に仲良しな方とは要所要所に、共に行動できるようさり気なく支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退(転)居の場合は随時、情報を聴かせて頂き、その後相談や支援をさせて頂く姿勢を示し、サポートさせて頂いた。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者のバックグラウンドアセスメントを基本に、職員全員が「まずはご本人を知ること」に重点をおき、日常生活の中においても記録に残し、情報の共有に努めている。	既存のアセスメントシートやセンター方式のシート、意思の伝達が困難な人を含め、家族からも意向を聞き取っている。利用者が施設に入ったことで諦めていた希望を家族に伝えて思いを実現させた例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居者の過去の生活歴を把握し、さり気ない会話の中から昔を思わせる場面づくりをしている。職業歴を考慮し、自尊心を傷つける事のないよう配慮をさせて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎回の申し送りで、ご入居者の日々の細かな状態の把握に努め、個々のペースに合わせた対応に努めている。ご本人の思いを最優先に個別の外出を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当が中心となってケースカンファを行い、ご本人、ご家族の意見をしっかりと受け止め、期限内に必ずプランを更新している。	本人・家族・必要な関係者から意見・情報を収集し、ケアプランに沿ったチェック表により細かな状態や様子の把握に努め、職員全員でその情報を共有し、意見を出し合いより良いケアプランの作成に取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿った記録記入に努め、変更があった場合は申し送りにより、職員間で情報を共有している。特に注意すべき点や新たな発見があった時は、マーカーを引き共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者の状態を常に把握し、主治医への報告や受診の付き添い等、臨機応変な対応をさせて頂いている。ご家族への伝達だけでは不十分な場合は、その都度主治医への報告書を作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族にも協力して頂きながら、ご入居者の自宅へ度々帰られ、家や庭の掃除をしたり、ご近所の方との交流を継続されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的にご家族と一緒にかかりつけ医に行っており、納得されている。急変時の協力医療機関との連携手段は常にできている。	基本利用者のかかりつけ医で、主治医に報告が必要と思われる状況時には、資料を作成し家族に渡している。急変時、看護師と連携を取り利用者の主治医への指示を仰ぎ迅速に救急搬送することができた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご入居者の体調の変化は常に把握し、必要な場合は早急に看護師に相談し指示を仰いでいる。特に夜間に関しては、状態の把握に努めながら、看護師への連絡がいつでも出来るようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院が必要となった場合は、迅速な対応ができる様に努めている。入院中は常にご家族、病院に確認を取っている。ご家族と相談の上、早期退院に向けて、主治医からの説明にも同席させて頂いた、		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご入居者全員に終末期ケアの事前確認書を頂いており、看取りが必要となった場合は、ご家族との連携を密にしながらか対応をさせて頂く。	利用者全員に入居時、実際に行った看取り記録のパワーポイントを使用して、終末期の施設での見取りの長所・短所(事業者・家族双方)を共有した上で、利用者自身の終末期についての考えを伺い、都度確認しながら共に歩んでゆく姿勢を形成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置している。実際に急変したご入居者に使用し、的確な対応をする事ができた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、毎回ご入居者に参加して頂いている。終了後も毎回、問題点を挙げ改善に努めている。災害発生に備えて食糧や飲料水、トイレ、寒さがしのげる物品を準備している。	消防署員同席の規定の訓練は実施されている。緊急連絡網は電話横に掲示され、災害時一斉メール訓練も実施している。災害時緊急備品も備えてあり、地域の災害時避難場所としての受け入れも検討している。	訓練には消極的な利用者も多く、実際と訓練にギャップがある。シートや物を使っての重度の利用者の移動・誘導方法(階段の降り方含め)等、もう1歩踏み込んだ取り組みが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者の自尊心を傷つけることのないよう特に、入浴、トイレ介助はご本人にあった声掛けを行っている。	利用者の人格や自尊心の尊重には理念に則り言葉遣い・声かけ等、非常に気を遣っている。トイレや入浴に拒否のある利用者には、好きな物や事の話をして楽しい雰囲気を作り、ゆっくりと対応し誘うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者自身が自己決定をし、希望を言って頂ける様に無理なくサポートをしている。外出や外食は個別に希望を聞かせて頂き、可能な限り、希望に添えるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者一人ひとりのペースを最優先にし、希望を聞かせて頂き、その方に合った支援をしている。毎日のグループワークの中で、一日の予定をご入居者で相談して頂いている。一日の過ごし方を柔軟に変えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の愛用の化粧品を使って頂いたり、お好みの服装で過ごして頂ける様に支援している。 ご自分で作られた服を着られている時には、さり気なく声をかけさせて頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニュー決めからご入居者と共に行い、一人ひとりの状況を把握し、無理の無いように進めさせて頂いている。	利用者と一緒に届いた食材を確認し、献立を再検討する。献立表はあるが、利用者の考えを取り入れて変更する。利用者は、職員が見守る中、下ごしらえ、味付け、配膳を分担して楽しそうに進めている。食事作りを最初から一緒に行うことで食事への関心が高められている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎回必ず確認し、一人ひとりの状態に応じ個別の対応をしている。ご本人の希望も伺いながら、食事量・バランスを取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口の中の手入れは、ご本人の習慣が影響するが、入居者様の力を引き出しながら、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、必要なご入居者には定期的な声掛け、誘導、介助を行っており、日中はオムツ対応の方はみえず、全てトイレで用を足す支援をさせて頂いている。	新人職員の第一課題もトイレ誘導練習で、利用者のトイレでの排泄を最優先課題としている。パターンが一目でわかる排泄チェック表を申し送ること、トイレの声掛け・誘導が効率よく行え、紙パンツから布パンツに移行でき、日中におむつを使用する人がいなくなるという成果を上げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちなご入居者については常に腹部マッサージを行い、排泄チェック表で常に把握している。必要に応じて服薬管理や浣腸等、自然排便を促す為の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調を考慮し、タイミングに合わせて入浴日や時間を調整している。入浴拒否のある方も、好きな食べ物や飲み物を用意し、ゆっくりと会話しながらすすめ。ほぼ拒否なく出来ている。	入浴は基本週2回、利用者の生活を変えないよう夕方にしている。必要時や3回以上の入浴希望にも、シャワーやお風呂で柔軟に対応している。拒否のある人には、お風呂を楽しく思える声かけの工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎朝の散歩や少しでも外の空気を吸って頂き、体内時計を整え安眠できるように努めている。 日中はなるべく離床して頂き、夜間の良眠につなげて頂けるようつとめている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には細心の注意をもって一人ひとりの名前、日付を確認したうえでやっている。必要に応じて医療機関に状況を伝え、相談し服薬調整に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者一人ひとりの生活歴から得意なことや好きなことを把握し、自信に繋げて頂けるように支援している。農家をされていたご入居には、畑や野菜のことを詳しく教えて頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「おやつ」の大好きなご入居者には定期的に買い物へ行き、好きなものを買って頂いている。ご本人の希望をご家族にも伝え、可能な限り行って頂いている。	車椅子の利用者も、毎朝の散歩やゴミ捨てを通じて四季の草花や朝の空気や近隣住民との触れ合いを楽しんでいる。定期的な個別外出支援も積極的に行われ、必要時は家族らの支援も得て、希望の場所に出かけられる機会を増やす努力をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の方にはお財布をお渡しし、買い物の際にはご自分で支払いをして頂けるように支援している。 全部できない方でも、お金をお渡しする等一部介助をさせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を希望される場合は、ご本人の希望通りに支援している。年賀状も、ご自分で出来る方には記入して頂き、一緒に投函までさせて頂いた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過度な飾り物等はせず、常に清潔感を保っている。ご近所の方から頂いた季節のお花をご入居者と一緒に活けたり、水の取り換えを行っている。	一般家庭にない飾りつけはしない方針で、利用者が落ち着けるような色調に配慮している。職員とみんなで過ごす共用スペースの他に、そこから見えない位置に応接セットがあり、気の合うもの同士がゆっくりくつろげる空間を設け、利用者の憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングだけでなく、少し隠れた場所にもソファを置き、ご入居者が自由に楽しくおしゃべりしながら過ごして頂ける時間を大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大切な思い出の写真や本をお持ち頂き居室でゆっくりと見られたり、皆さんと一緒に楽しく見ていただけるよう、さり気なく努めている。	居室は利用者自身が清掃する為、清潔・安全に配慮されすっきりとしている。家族の協力の下、持ち込まれた馴染の物や思い出の写真、好きなDVDや得意の手芸等、趣味を、ゆっくり楽しんで貰えるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体状態に合わせた、自立支援を最優先に、常に危険予測をしアンテナを張りながら、安心した生活を送れるよう努めている。		